

仙台市江陽グランドホテルで――

〔総会前理事会〕

通常総会の開会に先立ち、総会運営の確認等を図

るため正副議長打合せ及び
総会前理事会開催した。出
席者は、三役、正・副議長
及び理事十三人と事務局。
議事は平成二十六年年度総
会への対応、役割分担等に
ついて打ち合わせを行い、
円滑な総会・大会の運営を
図る方針だ。

皆様明けましておめでとうございます。日頃日本植木協会の活動・事業に対してご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。本日ご来賓の皆様方には林野庁から宮澤様、国土交通省から脇坂様、環境省から山根様、宮城県から三浦様、仙台市から吉川様のご出席を賜り、華を添えていただき誠にありがとうございます。また、日頃協会事業の運営にご協力を賜り厚くお礼申し上げますとともに今後とも宜しくお願い申し上げます。

さて、本会も一般社団法人となり二年目を迎えました。が、新法人移行の良否につきましては皆様方に判断していただき、執行部といたしましてもこれを基に案件を検討しながら運営して行きたいと思ひます。

私の仙台訪問は、震災後三回目となりますが、上空から見た限りでは港湾関係の復旧・復興にはその兆しも見えますが、内陸部ではまだ長い時間が必要と思う次第です。本会も震災後直ちに東北の地へ思いを馳せて、会員の皆様から募金活動にご協力していただきましたことにお礼申し上げます。

昨年秋季オリンピックの東京開催が決まり、被災地の復興、オリンピックの開催等大きな事業が有りますが、緑化関係に係わる技術者不足・技能者不足・資材不足が現実起きており、今後の課題として我々に課せられております。全国唯一の生産団体として原点に戻り、新しい国づくり、みどり豊かな街づくりに貢献して行きたいと思う次第です。今後ともよろしくご協力のほどお願いいたします。

一般社団法人 日本植木協会
平成26年度 通常総会

誠青年部会長から青年部会
の紹介及び賛助会会員から
の自己紹介があり、午後四
時二十分に植島清春副会長
が閉会を宣言し通常総会を
閉会した。

記念講演

記念講演は、一昨年に引
き続き、造園科・東京都市
大学教授の涌井史郎氏が講
演し、自然と共生する社会
の構築を目的に二十四年に
インドで開催されたCOP
11のテーマである「自然を
守れば自然が守ってくれる
」の演目に沿って自然と
の共生にはどの程度自然に
力を加えたらよいのか等
を、地球生誕の時期まで遡

福島県支部長の司会で懇談会に移り、始めに、田中ブロック長の開会の辞に続き、水城協会の会長及び木幡理事の挨拶に続いて、地元秋葉賢也衆議院議員・東日本大震災復興特別委員長の挨拶があった。続いて、冨井史郎 東京都市大学教授の乾杯により、懇談・懇親の宴に入った。全国各地からの会員と来賓の方々と懇談や互いの歓談を通して大いに盛り上がり、宴たけなわの中に、菅原豊副ブロック長の閉会の辞により午後八時に全ての行事を終了した。

[illegible]

千年希望の丘の視察を行い、その後仙台空港、J R仙台駅で解散した。

この後、協会会長長表彰あり、水城会長から役職中労表彰が理事の退任者カ名、ブロック長三名、支部長八名、部会長二名に對し授与され、続いて、従業員永年勤続表彰が一名、特別庭園樹木(名木)認定証が二名及びアボック・カルタ賞が一名に授与された。

アボック・カルタ賞受賞の三好武二氏(御ヒノマル・ナセリ・兵庫県)は、二代目経営者として家業を引き継ぎ、植物の生産販賣を通じて特に珍しい花木やコニファー等を早くから輸入して「夢のある植物」を求め育成し世に普及した。

また、初代新樹種部会長として学名標記を率先して部会に普及し定着した貢献が大きく、今回の受賞となった。

議案審議等

議長団には、議長田中泰穂氏(株ガーデンニ買地)

宮城県)を、副議長菅原氏(候みちのくヒトリフ)若手県と石田浩司氏(御石田農園/北海道)を選出。また、議事録署名人に大坂和男氏(御大坂林業/北海道)、齊藤悟氏(候斎藤造園/山形県)が指名された。

議事は、審議事項の第二号議案 平成二十五年年度決算報告及び監査報告について郡司克人専務理事及び久保山文生監事から説明と報告があり、賛成多数で承認された。続いて第二号議案 議員の選任について事務局から説明があり、賛成多数で承認され、別室において議員互選による新しい執行体制が誕生し、水城清志会長(有)水城園芸場/福岡県)から挨拶があった。(新役員の名・役職は次項にて別掲)

続いて、議長は報告事項について、事務局に説明を

求め、専務理事が、以下の報告事項について配布資料に基づき報告し、樹木識別検定試験の実施に関する有用のな実施と、公的資格等の取得によるその權威の保持と、面調査会に対する具体的な要望とその手段・方法について質問と要望があり、会長と担当理事が回答した。

1 平成二十五年事業報告（第一号議案の説明の（）際に説明済み）

2 平成二十六度事業計画と収支予算

これにより議案の審議は滞りなく終了した。

引き続き、植島清春副会長が災害復興樹種検討委員会作成の災害復興地に適した樹種をまとめた「要約版」作成に至る経緯とその版・周知等について説明し、その後、相澤潤東・甲信越ブロック長から次期通常総会開催地の発表、高橋

った源流から今日にいたるまでの歴史を年代に沿ってその時々、植物がいかに関わってきたかを説明し、みどりは自然と人、人と人、人と社会、都市と農村、過去と未来を繋げるつなぎ手そのものであり、コミュニティの構築に必要で大事なことであることを説いておられた。また、自然の力を活用しながら防災・減災を追求し、みどりの位置付け、存在理由を訴え続けることが必要で有ることを説かれた。更に都市部ではビル風、予防の常緑照葉樹・大乔木の需要予想と、地域では地域資源が不足しており、これらは今後の方向性に様々なヒントを頂いた講演会であった。(8面参照)

講演終了後、水城会長からお礼の言葉を述べ終りました。

懇談会

総会終了後、安瀬信一

中央研修会を
被災地の現状視察
通常総会翌日の二十五日
は、午前八時三十分にはホテ
ルを出発したバス三台に、
ブロックから説明役として
田中ブロック長、木幡理
事、菅原副ブロック長がバ
スに分乗して仙台市常浜小
学校に向かい、観音像に一
礼した後、林野庁や地元の
ボランティア団体等が施行
した植栽現場や、地元営林

開催
祭に百名以上が参加

て小高い丘の上から一面を
見渡し、復旧・復興状況を視
察した。約二年前の視察時
には、ボランティアが丘の
上に植樹した樹木等が多数
あったが、今回はすべて姿
を消し、自然の厳しさをま
ざまと見せつけられた。

その後岩沼市の空港南地区
では、協賛団体等が二十五
年六月に三万本を植樹した



こたえは紙面の
どこかにアリマス

被災地の現状視察に百名以上が参加

通常総会翌日の二十五日は、午前八時三十分にはホテルを出発したバス三台に、ブロックから説明役として田中ブロック長、木幡理事、菅原副ブロック長がバスに分乗して仙台市荒浜小学校に向かい、観音像に一礼した後、林野庁や地元ボランティア団体等が施行した植栽現場や、地元営林署主導による十四団体が林になる樹木を植栽した現場等を視察し、生育状況などを

て小高い丘の上から一面を見渡し、復旧・復興状況を視察した。約二年前の視察時には、ボランティアが丘の上に植樹した樹木等が多数あったが、今回はすべて姿を消し、自然の厳しさをまざまざと見せつけられた。

その後岩沼市の空港南地区では、協賛団体等が二十五年六月に三万本を植樹した千年希望の丘の視察を行い、その後仙台空港、JR仙台駅で解散した。

ワタシの名前がワカリマスか?





日本列島植木植物園運営委員会 委員長 八木 峰 夫 (神戸市田園・愛知県)

皆様方におかれましては、日頃より日本列島植木植物園に、多大なるご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。

日本列島植木植物園は、植木生産園地を活用したオアシス・パークであり、地域特性のある全国の植木生産園地をネットワークで結ぶことが、基本的な理念です。平成十五年の立ち上げより、十年経ち、現在では登録社団も七十一社園となり、将来的には全国に百十か所の植木植物園を各地域に展開し、緑や自然に対する社会貢献、ナショナルブランドコレクションの拡充、生物多様性の保全、生産の独自性等を目的に行っていくと考えております。

皆様方におかれましては、(株)京都農産物園と、京都府立植物園の視察・研修を協会員三十六名参加のもと実施しました。また、名古屋のブルーボネットで開催された公益社団法人日本植物園協会主催の技術講習会に参加しました。『植物の魅力を伝える』というテーマで、植物の魅力を『人』に感動を与える技術、『植物の魅力的な展示法』、造園家の手法をとりいれて、という二つのテーマのもとに、講演、意見交換が行われました。この二つの交流行事で感じたのは、植物に対するアプローチの多面性、広さ、深さでした。今後は、日本植物園協会等他団体とも交流・連携を深めながら、協会員の長年にわたって培われた経験と知識を活用して、植物の魅力、植物の大切さ、植物の癒しなどを、一人でも多くの人々に伝えていきたいと思っております。



緑育出前授業実行委員会 委員長 加藤 一 巳 (奈良県・鳥取県)

平成二十六年年度より委員長を務めさせていただきます。まず、何年かかかって、街を彩り、歴史を刻み、人々を惹きつけてきた存在も無残に撤去され、無味な都市が未だに各地で作られています。

この緑育出前授業実行委員会、この名の通り、緑を育てる仕事の出前授業を行い、子供たちを通して緑豊かな日本、世界を創造していくものです。その中で、私たち植木協会の果たすべき役割は、まさに緑の下に力を持ちます。表に出ることはありませんが、無くてはならない唯一無二の存在なのです。

昨年度、公益社団法人日本植物園協会に賛助会員として入会し、その入会記念事業として、武田薬品工業

いいのです。木の掘り取りの実績を見ても、ポットへの植え付け、大径木の移植、私たちの日々の仕事はほんの少し、画像や動画で、一番良いのは実物を、見てもらうという思いがあります。私たちが、どんな思いで仕事をしているのか、この木を眺める人が、街が、どうあつてほしいと願っているのか。

いま、子供たちは実際の仕事に触れる機会がありません。地域の社会問題に接する機会もありません。今後、土曜日授業が行われていくことになると思います。



供給可能調査委員会 委員長 佐久 定 規 (福岡県・茨城県)

皆様方におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、今年一月二十四日北海道・東北ブロック主管の、仙台総会において理事として承認して頂くこと共に、協会発展の為に活動する場を与えて頂き誠に感謝申し上げます。

この度は、調査・研究委員会、調査・情報提供可能調査・情報提供・実地調査・需要及び品質向上を主たる業務として活動させていただきます。

平成二十六年年度より委員長を務めさせていただきます。まず、何年かかかって、街を彩り、歴史を刻み、人々を惹きつけてきた存在も無残に撤去され、無味な都市が未だに各地で作られています。

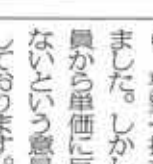
この緑育出前授業実行委員会、この名の通り、緑を育てる仕事の出前授業を行い、子供たちを通して緑豊かな日本、世界を創造していくものです。その中で、私たち植木協会の果たすべき役割は、まさに緑の下に力を持ちます。表に出ることはありませんが、無くてはならない唯一無二の存在なのです。

昨年度、公益社団法人日本植物園協会に賛助会員として入会し、その入会記念事業として、武田薬品工業

システムの改善を検討して参りますので、皆様には引き続き調査へご協力を頂きたく、この場をお借りして節にお願ひ申し上げます。

次に調査事業ですが、東京都農研機構との共同研究であるマサキ品種の同定調査を本年度も継続実施する運びです。また、新たにトキワマンサクの同定調査にも着手する予定です。

続いて需要及び品質向上事業ですが、緑化用樹木の供給と需要間の情報交換の場として、『建設物価』・『積算資料』との連携を深めながら、要望や提言を行ってまいりました。しかしながら協会員の半数に反映されていないという意見を多く耳にしております。



情報検討委員会 委員長 牛嶋 章 博 (福岡県・福岡)

皆様方におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、今年一月二十四日北海道・東北ブロック主管の、仙台総会において理事として承認して頂くことと共に、協会発展の為に活動する場を与えて頂き誠に感謝申し上げます。

この度は、調査・研究委員会、調査・情報提供可能調査・情報提供・実地調査・需要及び品質向上を主たる業務として活動させていただきます。

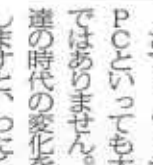
平成二十六年年度より委員長を務めさせていただきます。まず、何年かかかって、街を彩り、歴史を刻み、人々を惹きつけてきた存在も無残に撤去され、無味な都市が未だに各地で作られています。

この緑育出前授業実行委員会、この名の通り、緑を育てる仕事の出前授業を行い、子供たちを通して緑豊かな日本、世界を創造していくものです。その中で、私たち植木協会の果たすべき役割は、まさに緑の下に力を持ちます。表に出ることはありませんが、無くてはならない唯一無二の存在なのです。

昨年度、公益社団法人日本植物園協会に賛助会員として入会し、その入会記念事業として、武田薬品工業

必要とする部会・委員会と、そこまで詳細な情報を必要としない部会・委員会を一元化する事にあり、結果、無理が生じています。同様に、標準和名で行うべき部会・委員会と、流通名で充分な部会・委員会とのすり合わせも困難です。将来を見据え、徐々にでも標準和名を使用する方向へ協会として方針を定めていくと有りかと思っております。これらのハードルを乗り越え、当協会も一皮むけるのではないのでしょうか。

さて、IT・デジタル・PCといった大変なことはありません。少し先代達の時代の変化を思い起こしますと、わたしの明治生まれの祖父の時代は、手紙で遠方と注文のやり取りを行っていたと聞いております。その次に、電報・交換手付の電話・固定電話・FAX・携帯電話と通信手段はめまぐるしく進化しました。しかし、スコープ・鉄と同じような道具として、これらの通信手段も必需品となり、使いこなしているではありませんか。今では、パソコン・デジタル・iPadの時代変化が驚かされるばかりではございませんが、これも時代の流れで、その都度、なんだかんだ言いながら慣れて活用していくものなのではないでしょうか。



情報検討委員会 委員長 牛嶋 章 博 (福岡県・福岡)

皆様方におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、今年一月二十四日北海道・東北ブロック主管の、仙台総会において理事として承認して頂くことと共に、協会発展の為に活動する場を与えて頂き誠に感謝申し上げます。

この度は、調査・研究委員会、調査・情報提供可能調査・情報提供・実地調査・需要及び品質向上を主たる業務として活動させていただきます。

平成二十六年年度より委員長を務めさせていただきます。まず、何年かかかって、街を彩り、歴史を刻み、人々を惹きつけてきた存在も無残に撤去され、無味な都市が未だに各地で作られています。

この緑育出前授業実行委員会、この名の通り、緑を育てる仕事の出前授業を行い、子供たちを通して緑豊かな日本、世界を創造していくものです。その中で、私たち植木協会の果たすべき役割は、まさに緑の下に力を持ちます。表に出ることはありませんが、無くてはならない唯一無二の存在なのです。

昨年度、公益社団法人日本植物園協会に賛助会員として入会し、その入会記念事業として、武田薬品工業

緑育出前授業

緑育出前授業は、実施五年目を迎え、十一月末時点で授業実施回数三十九回、参加生徒数は三千百名を数える。平成二十五年年度は、関西ブロックにおける初の授業を含む六回を実施し、参加数は二百二十五名であった。

神奈川県支部員「生駒植木」生駒順氏の取り組みが、タウンニュース・戸塚版二〇一三年元月号に掲載されました。同新聞社了承のもと、ご紹介いたします。

植木のすごさPR

生駒植木 小雀小児童に緑育授業

植木会社の仕事や植木が環境保全に果たす役割を学ぶ「緑育授業」が12月11日、生駒植木(小雀町)で小雀小学校の3年生、約80人、生駒植木社長は横濱市内の小中学校を出前授業で訪れることもあるという。



当日はものづくりを仕事にする人の思いを知る社会科の授業の一環として、学んだ、児童の前には、拾ったどんぐりを生駒(種まき)で育てたシラカシの樹が飾られ、生駒社長から樹齢を教えられ、その大きさに児童たちは驚いていた。生駒社長は植木によっても育てるアジサイも見せ、「どんぐりや押し木の元で、ある葉っぱは一目にみえ、か見えなけれど、私達は」といった声が聞かれた。



環境緑化樹木選別決定実施委員会
呼称整理等委員会 委員長
川原田 邦彦
(確実園芸芸場・茨城県)

昨年、東京オリンピックの開催が決まりました。明るい話題として今後が期待されています。また今年は寒い年明けになりましたが、植物の小売は、暖冬でたらた春になるより、冬が寒いほうが春の売り上げが伸びる傾向があり、これも明るい期待かもしれません。

しかし我々のところまで景気が回復するにはまだ時間が必要だと思われまう。もう少し我慢の時間が要かもしれません。しかし、物は考えようです。こんな時期だからこそ力を溜めなくてはなりません。今後環境がよくなることは望めません。そんな中で環境をよくする絶対の仕事が我々の仕事だからです。アイドリングストップという言葉も普通の言葉になりましたが、みなさんご存知でしょうか？一日六分間、アイドリングストップを行い一年間貯めたものと、三mの樹を三本植えたものと同じだけCO₂の削減ができることを、多くの企業は環境を前面に押し立てて仕事をしています。多くはボーズですが、そうすることにより、多くの人の共感をよび、仕事に繋がっているからなのです。ですから本当の意味で環境を良くする仕事は我々がリードしなくては行けないし、今後もっとも必要がある仕事であることは間違いないと思います。

識別試験は、我々の希望の資格試験です。我々が主体となって実施することが決定した時、本誌にすこいことが起こったと思つたものです。私が仕事を始めたころから、施工業、設計業はもろもろ生産業において、植物を知らなくてもブ口だと看板を掲げ、仕事をしている、そういう業者のいかに多いことだったか。知っていることが当たり前に来ますので。



地域性植物選別委員会 委員長
國 忠 征 美
(グロウパルクリンクニタダ・岡山県)

なのに、知っていることがあっても悪いようにいわれた時代。業態は異なっても、外からみれば、植物を知っているのがプロなのに。それが現在にも至っています。プロである以上、植物を知ることにより、我々の文化水準をあげ、施工や設計までもリードできるチャンスなのです。本業界で著名な方々が外部委員を受けてくださっていることは、同様に考え、本事業に対する期待の表れなのですよ。

特に青年部といわれる若い会員の人たちはこれからなのです。植物の勉強もたくさんしてほしいです。今後、必ず役に立つ日が来ますので。

同様にあり、フィールドワーク等を重ね、植物の分類と生態について理解を深めていく必要がある。

販売時の産地証明書は、本協会に於いて発行されている。しかしながら一部の地域に於いて、探採、採種、生産もなく、他地域より導入した植物を地域性植物と称して適当な産地証明書により納入されている様に聞いている。この様なミラルのなない協会員は、いかなるものか。先日、セリエAのACミランに入団した本田圭佑選手がインタビューで

「サムライ魂」とはどんなものなのか？」と問われ、「わたしはサムライに会ったことがありません。でも、日本男児は決して諦めません。強靱きょうじむな精神を持ち、規律を重んじます。(以下省略)と即答している。本協会も自ら先にとられず、規律を守っていかねばならぬ。

本委員会では、植生調査委員会と合同で研修会(スキルアップ)を今年八月に東北震災被災地で行う予定であり、多くの参加を望んでいる。

植生調査認定試験は、平成二十一年から毎年秋に東京で実施され、昨年で四回目となりました。植生調査から、そこで得られたデータを元に修復のためのプランニングまでを担うことができるプロの技術者を認定するもので、筆記試験と実技試験で構成されています。ただし植生アドバイザー養成講座の修了者は実技試験が免除されるようになっています。昨年度までにのべ三十三名が合格して植生管理士に認定されています。さらに、この認定試験のテキストとなる書籍も今春に発行されるべく、準備を進めています。

「植生」は、われわれ植物を扱う植物屋にとって、基本的な知識だと思えます。自社の圃場にある樹木に接しているだけでは、「木を見て森を見ず」になりかねません。自然の森へ視野を広げれば、樹種ごにもっている特性、例えば日当たりや半日陰、湿気のある場所を好む、などは、自然界で自生する環境に由来することがわかるでしょう。また同じ環境にある樹種の組み合わせを知ることが、庭づくりには、庭づくりには

どの大きなヒントにもなり得る予定です。また受講されている方には、是非ご参加いただきまますよう、よろしくお六日中に群馬県川場村で開



ビジョン検討委員会 委員長
柿 原 吉 明
(株共栄園緑化土木・千葉)

皆様方におかれましては、新年を迎え益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

当協会も、平成二十四年十二月に一般社団法人に移行し、それに伴い組織の変更が行われ、新しく「ビジョン検討委員会」が設置されました。私は、昨年よりビジョン検討委員会の委員

長を務めさせていただいておられます柿原吉明です。ビジョン検討委員会は、青年部会役職経験者により構成されており、将来的な植木協会の方向性を含め、協会のあり方、事業の推進等について検討する委員会です。検討した内容については、総務・企画委員会に提案いたします。

当委員会としては、当面は災害復旧樹種検討委員会に注視して情報の早期収集とその結果についての周知・広報方法が重要になると認識しております。

また、緑化産業六団体協議会に出席した高橋青年部会長の報告により、植木業界の実情把握が各団体で認識のずれがあり、今後意見交換会を通じ、緑の啓蒙活動等の連携が必要であると考えています。

平成二十八年公表予定にある「花き産業振興方針」については、農林水産省農産部園芸作物課より井川分析官をお招きし、花き産業の現状・概算予算等を含め説明をいただきました。

今後、ビジョン検討委員会としては、次世代を担う青年部会員の意見等も広く聴き植木協会の進む方向性を見出したいと思います。また、災害復興および二〇二〇年開催の東京オリンピック等の実情を注意深く見守り、日本植木協会が緑化業界を牽引する必要があると考えています。

最後になりますが、会員の皆様方のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

日本列島は、南北に長く、太平洋と日本海に囲まれ、植物の種も多く、植生も様々である。我々は、その地域の原風景の創出と回復、貴重植物の保護等を目的とした委員会である。

植物の生産は、環境省の植物区分に基づき採種採集を行い、経済的生産地に於いて生産し、採種採集地に植栽を行う。それは、現存植生、潜在植生いずれに於いても対応出来る様に生産し、その際は高木、中木、低木をセットで行う。また、生産販売の際は、設計の時点より関わりを持ち、納入を行う。すでに東京都

に於いては、埋立地の緑化に植栽され、東京オリンピックの馬術競技会場になるという。そしてセツトで生産する際には、本協会の環境樹木選別決定と植生管理士の認定を受けるのが望ましい。それにより植物の分類、生態を深く理解し活動することが出来る。

植物は、各々の地域により気候、土壌等による耐性、遺伝子を考慮しなければならぬ。環境樹木選別決定は、関東、中部のみで行われているが、前記の通り各々地域で植物の種は大きく異なり、植生も同様である。当然、植生管理士も

平素は植生調査委員会の活動にご理解とご協力をいただきたき、深く感謝しております。

植生調査委員会の主な事業として、「植生アドバイザー養成講座」と、「植生管理士認定試験」がありま

す。「植生アドバイザー養成講座」は植生を實踐で学ぶ講座、「植生管理士認定試験」はプロの技術者を認定する試験という位置づけとなっています。

植生アドバイザー養成講座は平成十五年から始まり、昨年で十一回目となりました。これは毎年八月末〜九月初旬に群馬県川場村に於いて、3泊4日で植生学の基礎から植生調査の方法の実習、そこで得られたデータを解析して植生のタイプを導き、植生を復元す

るための手法を實踐で学んでいます。A、B、Cの三段階のコースで構成されており、A・B・Cの順で一年毎に受講して、全コース受講して修了となります。各コースの受講者ものべ三百四十四人となり、全コース修了者は六十九名となりました。受講者は協会のみならず、平成十八年から受け付けはじめた外部からの受講者は、現在およそ半数をしめるまでになり、公益目的の事業としても一定の役割を担っています。また植生復元のための指導者が各地に育つことで、植木の需要拡大につながることも今後期待されます。なおこの講座は、その優れた内容から林野庁・環境省共催の人材認定事業に登録されています。

ツバキ科ツバキ属
サザンカ [山茶花]
Camellia sasanqua

●常緑高木
7m程度 樹形は広円柱形
(四国(西南部)、九州、沖縄で自生)

●特徴・特性
葉は2~5cmの楕円形で、先は尖り、基部はくさび形。縁には鋸歯がある。やや厚い革質。表は濃緑色で光沢があり、裏は緑色。主脈と葉柄、若枝に短毛がある。基本種の花は白で、10~12月に開花する。花弁は5枚で、平開し、雄しべは筒状に合着しない。花には芳香があり、品種が多い。日本の特産種。

類似種/カンツバキ、タチカンツバキ、ハルサザンカ

●見分け方
カンツバキは葉が同じかやや大きく、質は厚く硬い。色は濃い。新梢の枝に毛がある。
タチカンツバキは葉が同じかやや大きく、質は厚く硬い。色は濃い。葉のつき方の密度が高い。
ハルサザンカは葉が同じかやや大きい。品種が多く、例外も多い。

●利用法
生垣、庭園樹、公園樹。

【鑑定図鑑 日本の樹木一校・葉で見分ける540種】
(三上常夫・川原田邦彦・吉澤信行著、日本植木協会編集協力、柏書房、2009)より抜粋



コンテナ部会

(一社)日本植木協会コンテナ部会
平成二六年度通常総会を開催

平成二六年度コンテナ部会通常総会は一月二十五日十三時より宮城県仙台市青葉区の会館で中央研修会後、四十三名参加のもと、吉澤副部会長の司会の元、中村副部会長の開会宣言に続いて黒田部会長の現状の商品不足、生産者生産能力の問題等の直面している事をクリアするために「植木の力」を示すときが来ている、「植木の力」は生産者としての事を念頭に置いた力強い言葉と中央研修会後の感想では、またこれからでも被災地植栽は間に合う考えを報告し、コンテナ部会の躍進の年にしたい旨の挨拶があった。次に前



新部会長(株)小金井園・吉澤氏はじめ新役員を承認

平成二六年度事業報告
第一号議案
では、事務局より会員動向で二社園の減少の百二十五社の会員報告と各委員会開催報告に続いて各委員会委員長から下記の活動報告が行われた。
総務委員会
「緑のまちづくり支援機構」運営委員会参加PRに努めた、新規事業企画開発では圃場管理システム試験場を設け、GTS企画商品(ミニスト緑壁

ユニット)に植物供給ルートづくりに取り組んだ、そして、国土交通省の先進緑化技術開発助成金事業に応募し認可を受ける成果報告。
広報・研修委員会
PR用パンフレット(長尺つる性植物、短期間で美しい緑化景観がつけれる)等を総会等で配布を行う、ミウラ折りパンフレット作成検討、総会後に山口清重氏の講演を行う、国内研修では七月に五十七名参加して九州視察と吉澤隆博氏の講演を行う、十月に日本製紙と(公財)日本花の会を十七名が訪問視察等の成果報告。
流通委員会
生産数量調査で八十社園の協力を得た報告と両調査会懇談会参加し意見交換を行う成果報告。
資材委員会
協力会会員との交流を二月、十月の二回、資材セミナーを三月に、ダイリグ粒剤の薬剤効果試験等を行った成果報告。
植生調査委員会
協会事業と総会時及びセミナー開催時等でPR用パンフレット配布実施報告。

第二号議案
平成二五年度決算及び監査報告は事務局より決算報告があり、監事の山崎富夫氏より監査に於いて諸帳簿等が適正処理している報告の後、一号議案、二号議案の一括採決が行われ賛成多数で承認された。
第三号議案
平成二六年度事業計画案が各委員長から総務会、広報・研修委員会、流通委員会、資材委員会そして植生調査委員会の二六年度事業計画案が報告された。

第四号議案
平成二六年度事業予算案を事務局より報告があり、前年度より二百三十万円以上の事業費増となる報告の後、質疑が行われ、コンテナ部会及び協会で東日本大震災復興緑化支援の計画等の質問に対して役員会で協議し協賛と連携した活動の報告があり、その後三号議案及び四号議案の一括採決を行い、賛成多数で承認された。
第五号議案
会則十三年三項により平成二六年度、二七年度の役員改選は役員候補者松村幹子氏、中村健次氏、黒田剛氏、吉澤信行氏、飯田貴大氏、上条祐一郎氏、加藤昌彦氏、山本茂三氏、恒石昌夫氏、梶村和男氏、山崎富夫氏、竹中昭雄氏の役員候補が賛成多数で承認された後、新役員は一時退席し新会長を(株)小金井園の吉澤信行氏、副会長を(株)大坂林業松村幹子氏と(株)中村農園中村健次氏を選出し、再入場し出席者に報告を行った。

その他
事務局よりアボックカルタ賞は(株)ヒノマルナーセリ・三好武二氏の受賞報告の後、副部会長の中村健次氏の閉会の辞で定刻に総会が終了した。

「これはなんなん?見たことなかね。」
これは、当園に来ていただいたお客様から言われた、私にとっても嬉しい言葉です。
私は、農業大学を卒業してすぐに家業である緑化樹の生産に就き、現在までの十五年間コンテナを中心として、少しでもお客様のニーズに答えられる樹木を常に考えながら生産してきました。
始めたばかりの頃は、父に言われたことをこなすことに精いっぱい、樹木を生産して市場へ持っていくのは良いと考えていました。
当園が、福岡県久留米市という樹木の生産地であるだけに消費地にも近いという恵まれた環境にあったことが、当時の私の「作って出すだけいいやん」と軽々しく甘い考えに拍車をかけた。この考えは、父をはじめ多くの方から反対がありましたが、自分なりに緑化樹の生産のビジョンを伝えていくために、必要なことでした。しかし、新しい「緑化樹」の軸となる樹木にめぐり合うことが、なかなか

出来ませんでした。そこに自分を作った物とお客様が求めている物との少のすれに、私が気付いていなかったことにありました。しかしその時、新しく建設されたビルのアトリウムの植栽を見る機会があったことで、お客様が求める自分なりの個性を出せる「カラーリーフ」を探し生産に力を入れていくことが出来ました。
「カラーリーフ」は種類も豊富で、注文販売や市場などでも評価が高く、もっとアピールする場があればと思っていた時、偶然にも植木協会の青年部の方から熱心にお誘いがあり、青年部に入会させて頂くことになりました。
私は、それまで人のお付き合いが少なかったのですが、青年部で同世代の方との交流を持つことが出来て、生産だけでなく様々な事に視野を広げることが出来ました。そんな中、データ化実務小委員会、在庫

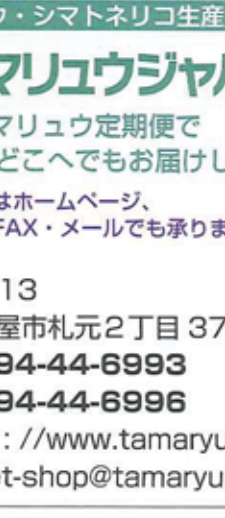
を任せて頂くことになりました。この委員会は、植木協会の供給可能量の調査や福岡県支部の秋の在庫表の作成を行っています。
この役割を持たせて頂いたことは、大変ではありましたが、青年部の方とはもちろん親会の方とも交流をさせて頂ける良い経験になりました。そして、多くの方とお話していく中で、お客様のニーズに答えながらも、個性的に見た人が一目惚れするような樹木を作っていくことがとても大切なのだと学ぶことも出来ました。
私は、これからも青年部の活動を通して出会った人との繋がりを大切に、広げていきたいです。そしていつか、誰かが一目惚れしてくれるような魅力ある樹木を作ることが出来るように頑張っていこうと思っています。

自分の「樹」を見つけよう
青年部会 九州ブロック 今村 守厳
(今村静花園・福岡県)

直営農場でシマトネリコ 30,000 株
タマリユウ 60,000 マット
7ha生産中



タマリユウ・シマトネリコ生産販売
タマリユウジャパン
タマリユウ定期便でいつでも・どこへでもお届けします。
●ご注文はホームページ、電話・FAX・メールでも承ります。
〒893-0013 鹿児島県鹿屋市札元2丁目 3727-2
TEL: 0994-44-6993
FAX: 0994-44-6996
URL: http://www.tamaryu.jp/
E-mail: net-shop@tamaryu.jp



元ミス日本グランプリの植木協会体験

えりかが行く!

二〇一三年度ミス日本グランプリ鈴木恵梨佳さん。任期を終えた現在、その美しい容姿を保ちながら、緑の空間デザインプロデュースという夢に向かって歩んでいます。そんな鈴木さんに、植木協会の事業、現場での作業など体験してもらい、感じた事などレポートしてもらおう、というのがこの企画。

初回は、一月十四日に開催された環境省主催「みどり香るまちづくり企画コンテスト表彰式」ミス日本の任期中の鈴木さんは真赤なロングドレスで登場し、会場の雰囲気、観客を魅了しました。



鈴木恵梨佳

緑豊かな東京都高尾に生まれる。二〇一三年度ミス日本グランプリ。大学で学んだ植物や土壌に関する知識、ミス日本での経験に基づき、緑地空間プロデュースを目指し、日々奮闘中。

皆さん、こんにちは。は二〇一三年度ミス日本グランプリの鈴木恵梨佳です。私は大学で造園学を専攻しており、ミス日本の経験などで感性やインスピレーションを養い、緑の空間デザインプロデュースをしていきたいという目標を持っています。そんな中で素敵な緑を頂き、これから私が体験したことを緑化通信で連載させてもらえる事になりました。どうぞよろしくお願ひ致します。

今回は環境省主催「みどり香るまちづくり」企画コンテストの表彰式のお手伝いへ行ってきました。このコンテストは、まちづくりの香りの要素を取り込むこととで良好な環境を創出しようとする地域の取り組みを支援するために開催されています。

第八回目の環境大臣賞には、中川ルネサンスプロジェクトという、駅前中央遊歩道に誰もが手入れやお世話のできる花壇や緑のスクリーンやナースリーなどを配し、みんなで花と香りを育て、学校や駅や公園を繋ぎ、人々が集まりふれあう交流広場を目指す企画が受賞しました。

表彰式前に行われた座談会では、受賞者の皆様から作品のポイントを直接伺いました。「香りをどう用いるか」については「人と自然の生き物たちを緑と花が繋ぐ、共生する、そこに香りというポイントを置く」という内容が何え、とても勉強になりました。私が今後、緑の空間デザインプロデュースの機会を頂けた時、ぜひ参考にしたいです。

他に印象に残った話は、香りの好き嫌いへの対応について、東京農業大学造園科学科の近藤三雄先生がお話されていたことです。「デザインも一緒に香りが十人十色の好みがあるもの。万人に好まれるものをと苦戦する前に、まず自分が好きなもの、まず自分が好きな「都市緑香」を掲げ、世界を作るのが良いでしょう」このお話は私にはなんだか衝撃的で且つ心にストンと落ちるような納得感がありました。

表彰式の後に行われた近藤先生の記念講演「東京オリンピックに向けて香しい和の国に」は、所々で会場が笑顔に包まれる素敵な講演でした。海外では見えない緑化として、目の不自由な方にも楽しんでもらえるように香りをテーマにした公園があります。ただ、もっと大きな観点である都市整備に「香り」を基調にした取り組みは、これまで歴史的に世界中どの国でも行われていないそうです。東京オリンピックに向けて、香りととの取り組みとして、香いできるような頑張りたいと思います。

からの旅行者を和の香りに包んでおもてなしをしようというビジョン、とても興味深かったです。

先生はそのビジョンに向けてのステップのひとつとして、日本庭園を無形文化遺産に登録することを提唱されており、実はもうその活動も開始されていると伺いました。私も、日本庭園は最上級のおもてなし空間であり、無形文化遺産になるべきだと思いますし、私の今の大きな夢「東京オリンピックの時に世界の方を日本の緑でおもてなししたい」そのおもてなし空間を作る一人になりたい」という夢にとってもリンクしているの、ぜひ何かお手伝いできるような頑張りたいと思います。



15:00 表彰式
鈴木さんの登壇で各団体のプレゼンターも笑顔に



13:30 座談会
受賞者の思い、審査員などから参考になったことを質問にメモをとる



15:00
表彰式での鈴木さん挨拶、東京オリンピックでの緑地空間プロデュースの夢を公言。

新樹種部会

ハナミズキ'レッド ピグミー'

Cornus florida 'Red Pigmy'



- *ミズキ科、落葉広葉樹。樹高2.0~3.0m位。
- *アメリカで作出され、ハナミズキコレクターが絶賛する矮性のハナミズキ。
- *若いうちから花をたくさん咲かせるので、鉢植えに最適な品種。
- *植え付けは、午後に陰るような場所が最適であるが、乾燥に注意すれば日なたでもよい。
- *剪定は混み合った枝を間引く程度で十分。

協会カレンダー Trees&Shrubs2014 3-4月頁掲載

うえき・よろず相談

【質問】「毒性があるとされる植物(樹木)には何がありますか?」

【回答】

毒のある樹木や植物は、拾い上げれば切りがない程あります。私達が良く食べるウメボシの若い実は青酸を含んでいると言われていますし、トチの実も良く水に晒してアク抜きをしないと胃腸障害を起こします。そこで皆さんも良く知っている樹木や草本類の中から、主だった種類を挙げてみます。樹木ではアセビ、シキミ、キョウチクトウ、ドクウツギ、エゴノキ、ウルシ、ミヤマシキミ、ナギなど、草本類ではトリカブト、ヒガンバナ、ドクゼリ、スイセン、スズランなどがあります。この様な毒のある樹木や植物もただ忌み嫌うだけでなく、一歩進んでその利用方法などを考えてみてはいかがでしょうか。例えば近年イノシシ、シカ、サルなどの獣類が里山に下りて来て大きな被害が出ています。これらの防犯対策として電柵の設置が行われていますし、獣類を森に戻す意味から、用材の生産目的だけのスギ、ヒノキの植栽から、獣類のエサになる、いわゆるドングリになる広葉樹の植栽も増えて来ています。これらと合わせて、毒のある樹木や植物を利用した方法も考えられます。森と里山の境にシキミ、アセビ、ミヤマシキミ、ナギなどの列植あるいは垣根状の植栽が考えられます。また草本類ならば田や畑の周囲にモグラやネズミの侵入防止対策としてヒガンバナ、スイセン類などの植栽も考えられます。あの可憐な花を付けるスズランも牛馬などは絶対食べないと言います。農地と牧草地などの境に植えるのも良いと思います。私達は樹木や植物の生産や利用を生業としている業界です。もっともっとこれらの植物類の活用方法を考えて行く事が必要だと思ひます。

回答協力:千葉県 大門園 大高一郎氏

うえき・よろず相談では、質問・疑問を募集中! 日頃不思議に思っていること、困っていること、聞いてみたいことなどが解決できる好機会です。ご自由にお寄せ下さい。

下記の質問へのご回答を広く募集中です! ご回答者には寸志を差し上げております。

4月号用質問 回答〆切 3月14日

→「水やりの際に、葉っぱに水をかける人とかけない人、両方いますが、本当はどちらが良いのでしょうか?」

*植木協会ホームページ・会員限定情報・掲示板でご投稿いただくか、事務局 緑化通信担当まで。

4回連載 平成26年度通常総会 記念講演

「自然を守れば自然が守ってくれる (COP 11 標語より)」

講師 涌井 史郎氏

第一回 命の危機に直面している地球人間は生命圏の中で邪魔な存在？

平成26年度通常総会における涌井史郎氏による記念講演内容を、今月号より4回連載でご紹介します。

二〇一〇年に愛知県の名古屋で開催された生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)で、「二〇五〇年までに自然と共生する世界を実現する」という愛知目標が採択されました。そして二〇一二年、インドのハイデルバードで開催されたCOP12でインド政府は、愛知目標を実現するためのテーマとして「Nature Protects if site is protected (自然を守れば自然が守ってくれる)」を打ち出しました。



【涌井史郎氏 プロフィール】

1945年11月22日 神奈川県鎌倉市生まれ
造園家 東京都市大学環境情報学部教授
岐阜県立森林文化アカデミー学長
造園家として多摩田園都市、全日空万座ビーチホテル、ハウステンボス、東急宮古島リゾート等のランドスケープ計画・デザインに参与するなど都市と自然の関わりにおけるランドスケープデザイン作品を数多く手がける。

公 職 (一社) 国際観光施設協会副会長
(一社) 日本造園学会監事

主な著書 景観から見た日本の心
(2006年、日本放送出版協会)
奇跡と希望の松
(2012年、創英社/三省堂書店)
そ の 他 論文、記事、講演、メディア出演多数

この言葉は、我々緑に関係する者にとって、まさに宝だと思えます。そして皆さんには、いま世界は激動期にあり、だからこそ我々にとっては大きなチャンスだということを、しっかりと頭に入れておいてほしいと思います。

昨年、六年ぶりに「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」による第五次評価報告書が発表され、一八八〇年以降気温が0.85℃ほど上昇しており、その

流れが収まりそうにないことなどが報告されました。我々人間が地球上でまともに暮らすことが出来る気温は、産業革命以前12℃の範囲と言われています。もう1.5℃の猶予しか残されていないのです。

この原因は言うまでもなく地球温暖化の進行であり、大気中のCO₂濃度が上昇することで、平均気温も同じように上昇しています。さらに問題なのは、平均気温が1℃上昇すると、生物種の10%が絶滅すると言われていることです。CO₂濃度と気温の上昇カーブと同様に、絶滅種数も上昇カーブを描いているのです。我々はいま、地球環境の危機に命の危機に直面しているのです。地球は、半径6400kmという極めて大きな星ですが、生物が暮らせる条件を満たしている生命圏は30kmしかありません。命の危機は、このわずかな厚みのなかでの問題なのです。

地球の歴史はおよそ四十六億年。約二十八億年前に炭酸同化作用(光合成)を行い大気中に酸素を供給する生物が誕生したことをきっかけにして地球上は命でにぎわい始め、やがて生命圏に生産者、消費者、分解者が登場しました。人間が完成したのは、このシステムが完成した後、いまから五百万年前で、地球の歴史を一年に換算すれば、十二月二十八日頃のことです。

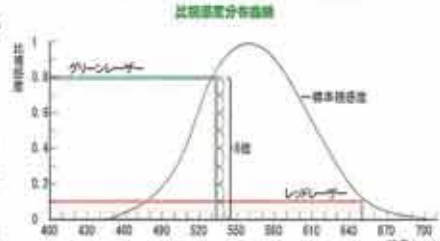
す。そして二万年前、層で言えは十二月三十一日一時五十九分、人間は第一の革命を起します。すなわち農業を覚えて定住するようになり、集落や都市、経済の構造や政治が生まれ、文明が誕生したのです。そして、それから九千七百年後、いまからおよそ三千年前には第二の革命、産業革命が起こり、そのことによって我々は非常に豊かになりました。しかし、豊かさを求めすぎたが故に、将来の人類の生存を危うくしているというのが現状です。

人は森から生まれ、常に緑を友としてきた

ストレス過多の時代ほど自然との触れ合いを求める



人間の目は「S錐体+M錐体+L錐体」という三つの視神経によって色を知覚する。それぞれの錐体毎にピーク波長は異なるのだが、その三つの合計で知覚した『標準視感度』を基準とした、波長毎の見え易さを比べた『比視感度曲線』からもわかる様、真ん中くらいの波長域555nmと言う波長は、人間の目が、『緑色』と知覚する波長であり、最も見え易い。



会員動向

社名・代表者・住所変更

▷(株)グリーンラボ
代表者:須藤真由美
住所:本社 〒963-8033
福島県郡山市亀田2-23-27
矢吹事務所 〒969-0237
福島県西白河郡矢吹町牡丹平2-3
◎(株)高野植物園
代表者:高野勝重

代表者変更

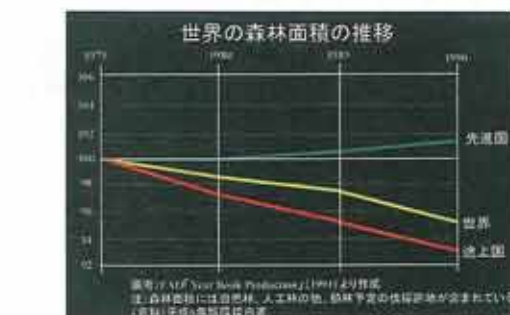
(株)飯塚緑化土木(千葉県)
▷(株)飯塚靖久
◎飯塚勝雄

訃 報

飯塚勝雄様(千葉県)
(株)飯塚緑化土木(飯塚靖久氏父)
平成26年1月19日没 享年86歳

物に寄生していたウイルスが宿主を失い、結果として人間に感染するということが、人類が滅亡しかねないパンデミック(世界的な感染)がどんどん出現しているというところは、生命圏において、もはや人間そのものが邪魔な存在になってしまっているのです。

いま人類は第三の革命、なにかしら新しい英知を働かせないとい状態に追い込まれているのです。



新興・再興感染症の拡大

新興・再興感染症の大部分は人獣共通感染症。最近の30年間で30数疾患が発生。



エマージング(新興)ウイルス感染症

1973	ロタウイルス 乳児下痢症
1977	エボラウイルス エボラ出血熱
1977	ハンタウイルス 腎臓出血熱
1980	HTLV-I T細胞白血病
1982	HTLV-II ヘルパー細胞白血病
1983	HIV-1 AIDS
1988	HV-6 変異性発疹
1989	HCV 慢性肝炎、肝臓がん
1991	ガナリトウイルス ペネズエラ出血熱
1994	サビアウイルス ブラジル出血熱
1997	インフルエンザA(H5N1) 急性肺炎、脳症
1998	ニパウイルス 急性脳炎
2001	新型コロナウイルス SARS